

会議録（１）

会議の名称	令和６年度 第２回飯能市地域福祉審議会及び飯能市地域福祉活動計画推進委員会		
開催日時	令和７年１月２０日（月） 開会 午後６時３０分 閉会 午後８時１５分		
開催場所	飯能市総合福祉センター ３階 大会議室		
議長氏名	菱沼 幹男		
出席委員	菱沼 幹男 有賀 りつ子 平沼 弘	本橋 千恵美 都築 公子 横尾 静男	綿貫 まなみ 清野 剛義 大野 康 三上 雅子 鈴木 正男 長谷川 信二
欠席委員	岡野 民嗣	大野 泰規	角田 健一
説明者の職氏名	地域福祉課主幹 飯能市社会福祉協議会主幹 飯能市社会福祉協議会主査 飯能市社会福祉協議会主任	山岸 絵里子 野田 剛 宮澤 敬行 梅木 裕也	
傍聴者の数	なし		
会議次第	別紙のとおり		
配布資料	別紙のとおり		
事務局職員職氏名	福祉部長兼福祉事務所長 福祉部参事兼地域福祉課長 地域福祉課主幹 地域福祉課主任 飯能市社会福祉協議会常務理事 飯能市社会福祉協議会主幹 飯能市社会福祉協議会主査 飯能市社会福祉協議会主任 飯能市社会福祉協議会主任 飯能市社会福祉協議会主任	五十川 美也子 大橋 はるか 山岸 絵里子 赤木 永幸 双木 和宏 野田 剛 宮澤 敬行 梅木 裕也 田沼 大悟 黒澤 太輔	

会議録（２）

議事録の概要〈経過〉・決定事項

議事

- （１）第４次はんのうふくしの森プラン 事業実施状況について
配布資料について、事務局が説明し、承認された。
- （２）圏域別ふくしの森活動計画 自己評価について
配布資料について、事務局が説明し、承認された。

会議録（３）

発言者	発言内容
議長	それでは、議事に入ります。 「（１）第４次はんのうふくしの森プラン 事業実施状況について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。
地域福祉課主幹	（資料１の市所管分を説明）
社会福祉協議会主任	（資料１、別紙の社会福祉協議会所管分を説明）
議長	第４次はんのうふくしの森プランに関わる事業として新しい動きも出ており、委員の皆様の中にも関わっていらっしゃる事業もあるかと思えます。 そういった目線からでも、皆様からご意見、ご質問があればお願いします。
委員	移動販売車「うえたん号」について、プランの「【安】安心して暮らせる仕組みをつくろう」の中の「連携による防災、防犯の地域づくり」に関わる事業ということですが、利用者から相談を受けたときに、どのような相談経路になるのか確認したいです。
社会福祉協議会主任	移動販売車「うえたん号」の運行につきまして、一部の地区ではＣＳＷが随行しておりまして、そこで相談を受け、各関係機関に繋ぐというフローになっています。
議長	そこで実際にあった対応事例等がありますか。
社会福祉協議会主幹	「うえたん号」は、運行開始して間もないので、具体的なニーズを把握したということはまだありません。しかし、随行しているＣＳＷが何か気になったことなどあれば、その都度、地域包括支援センターに情報共有をしています。 先行して運行しているセブンイレブンの移動販売では、ひきこもりの相談に繋がったり、介護保険の関係で地域包括支援センターに繋いだりというような事例があります。 この移動販売をアウトリーチの機会として、各関係機関と連携して対応していこうと考えています。

委員	「はんのうふくしの森みらいカレッジ」について、今年度の2回目が中止となってしまったということで、我々の方でもなかなか事業の紹介が出来なかったと感じていますが、現在、「ふくしの森リーダー」が何名いらっしゃって、どんな活動をしているのかが分かると、適性のありそうな方に事業の紹介ができるのかなと思います。
社会福祉協議会 主任	現在、「ふくしの森リーダー」は、通算して26名が登録しております。主な活動内容としては、新たな地域活動の立ち上げや、地域活動の中心的役割を担っていただいたり、個人として困っている人をCSWに繋いでいただいたりと多岐に渡っています。
議長	今後、「はんのうふくしの森みらいカレッジ」の参加者が振るわないのであれば、「ふくしの森リーダー」という名称の見直しを考えてもいいかもしれません。「リーダー」というのが参加のハードルを高くしてしまっている可能性もありますので、名称については検討しても良いかと思います。
委員	AI相談支援システムについて、時代が変わってきたんだと感じています。 このシステムの導入にあたって、「デジタル田園都市国家構想交付金」と市の予算をどの程度使って、どれくらいの規模の歳出になっているのでしょうか。
地域福祉課主幹	このAI相談支援システムの導入費用につきましては、約400万円となっております。 また、「デジタル田園都市国家構想交付金」の補助率は1/2となっております。
委員	地域にどんな資源があるのかという情報を的確に伝えるためのツールとしてAIを使うのは、もしかしたら、新人からベテランまでの相談の質の差を埋めるものになり得るかもしれません。しかし、相談者は必ずしも情報が欲しくて相談しているわけではないので、使い方を気を付けなければいけないとも感じています。 また、「はんのうふくしの森活動者交流会」を実施していただき、各団体から出てきた意見を聞いてみると、多くの団体が後継者確保に苦慮している印象でした。 ボランティア活動してもいいという人をどう発掘していくかが課題になると思うので、ボランティア活動の希望者がタイムリーに活動できるようなプログラムが出来て、活動が継続されていくような循環が生まれればすごく良いのだと思います。

	交流会を行うことで、団体、組織の横の繋がりが出来きていくのは、支え合いや福祉活動を継続していくために必要だと感じています。
委員	「はんのうふくしの森活動者交流会」に参加して、自分が所属している組織と、グループのメンバーが所属している組織とで行っている活動が、地域性の違いもありかなり異なっていたので、なかなか共通した話が出来なかったと感じました。しかし、後継者不足という問題はやはり共通した話題として挙がっていました。
委員	「はんのうふくしの森活動者交流会」に参加して、市内にどんな組織があつて、どんなことをしているのかを知ることが大事だと考えています。組織のことを知ることで、相談を受けたときに必要な組織に繋ぐことができるので、有意義な会だったと感じています。 また、A I 相談支援システムについて、担当者間で情報が共有できるということで、守秘義務がある中で、どの程度の範囲まで共有できるものなのでしょうか。
地域福祉課主幹	このA I 相談支援システムは、行政の中のみで運用しているシステムとなります。かつ、各所管課の中でのみ情報を見ることができるようになっておりますので、他の所管課からのアクセスは出来ないようになっています。
委員	とても良いシステムだと思いますので、守秘義務を優先しながらも、行政以外の相談機関へも情報を共有できるような仕組みづくりをしていただけると助かります。
地域福祉課主幹	システムにより文字起こしされて、データ化したものは、様々な会議や検討の場で使用出来るデータの基礎になり得ると考えています。
委員	相談対応をされていてたびたび感じるのは、市の各所管課で情報があまり共有されていないのではないかとということです。 このA I 相談支援システムを使用したときに、他の相談窓口、相談機関へ相談した方が良いというような情報は出てくるのでしょうか。
地域福祉課主幹	A I 相談支援システムでは、相談中に出てきた特定のワードに反応して、ガイダンスが表示されます。登録されているワードにそういった相談窓口、相談機関が入っておりますので、他の所管課に関わるワードが出てきた場合にはそちらへ繋ぐことが可能となっています。
委員	障害分野の専門施設だとしても、利用者に困りごとがあれば受け止

	めるようにしています。その場合に、このシステムは対応できるのでしょうか。
地域福祉課主幹	全く異なるジャンルの相談に派生するような場合でも、登録されているワードであればガイダンスとして表示されますので、最初の相談窓口ですべて解決されるわけではないですが、必要な相談機関等へ繋ぐことが出来ます。
委員	また、コミュニケーションが苦手な方もいらっしゃると思いますが、そういった方々への配慮はどうなっていますか。
地域福祉課主幹	コミュニケーションが苦手で、主訴を伝えるのが難しいような相談者の場合は、相談員の経験やスキルで聞き取りをしていただくようなことを考えています。このシステムは補助的なツールであって、相談を受けているのはあくまで相談員になります。A I が介在できない領域に関するところは相談員の力が必要になると考えています。
委員	施設の中で日常的に様々な相談を受けています。我々の役割としては、相談されたことを自力で解決するのではなく、必要な関係機関等に繋ぐことです。その中で、利用者から受けたお話を相談として受け止められるのが大切だと考えています。
議長	ここまでのご意見にもあったように、相談業務を行う中で、システムを上手く活用することが重要だと思います。 また、相談者に対して、A I 相談支援システムで相談の記録をとることについての了承を取っているのでしょうか。
地域福祉課主幹	面談での相談の場合、相談員と相談者との間にパソコンとマイクを置くという形になりますので、事前に了承を得た上で、相談の記録を取る形にしています。
議長	記録を取った場合、スーパービジョンとして、相談内容が適切だったかをフィードバックするということにも活かしていけるかと思います。 また、相談支援の専門職の養成を行う中で、「結論の提示は急がない」ように教えています。様々な地域資源や制度を使うことばかりに気持ちが行ってしまうと、相談者のことをないがしろにしかねないからです。そのため、A I 相談支援システムで様々な情報が出てきたとしても、相手の状況に応じて、提案が出来るようにして欲しいと思います。

委員	「はんのうふくしの森活動者交流会」に参加して、様々な方々とお話しをする中で、自分たちの地域で取り入れられそうな取組や、自分たちとの取組方法の違いなどを学ばせていただきました。
委員	私は第3次はんのうふくしの森プランの期間中に、「はんのうふくしの森みらいカレッジ」に参加しました。様々なことを学ばせていただいて、地域の居場所づくりを行うまでに至りました。このような有意義な場が、中止になってしまうのは残念に思います。3名の申込みのみのため中止ということでしたが、次回開催時には申込みのあった3名に対してご案内はするのでしょうか。
社会福祉協議会 主任	今回申込みをしていただいた3名の方々には、次回開催時に丁寧にご案内をさせていただきます。 また、議長からご指摘いただいた「ふくしの森リーダー」という名称に関しまして、元々「ふくしの森リーダー」自体が、地域活動の中心となることを目指す人となるので、ハードルはどうしても高くなってしまふのかと思います。この「ふくしの森リーダー」の前段階として、「ふくしの森サポーター」制度というものがあります。これまでサポーターの養成は行なっていませんでしたが、今後はボランティアセンターと協働し、サポーターを増やしつつ、そこから「ふくしの森みらいカレッジ」に参加する対象となる方々を増やして行きたいと思います。
委員	「第4次はんのうふくしの森プラン」の啓発実施について、昨年10月25日に地域福祉課の職員に出前講座をしていただきました。出席していた自治会の方々の中には新任で、ふくしの森プランについて全然知らないという方もいました。そういった方々にもプランを知ってもらふ機会が出来てとても良かったと思います。
委員	自治会の役員は1年ごとに替わるケースが多く、その中で福祉を学ぶのはなかなか難しいと感じています。その中で双柳が、地域活動団体同士の繋がりを目的に「地域福祉推進組織」の立ち上げを目指しています。双柳で新しい成功例を作ってもらって、その他の圏域にも繋がっていけばと思います。
委員	「重層的支援体制整備事業の移行準備開始」を読みまして、これまでの相談支援の縦割りの構造だと、どんな困りごとでも受け止めることが難しいので、このような事業を進めているのだと感じました。 また、AI相談支援システムについても、膨大な時間を要する相談

	記録の文章化を補助してくれることによって、大切な相談支援の部分に注力できるようになるのだと思います。 双柳の新たな地域福祉推進組織の立ち上げについて、既存の団体、集まりが繋がることで新たなアイデアや行動が生まれてくるので、その他の圏域でも組織が立ち上がっていくと素晴らしいと思います。
議長	今回報告があった事業は、計画に基づいていたり、新たな動きとして実施されたものもありました。この審議会及び委員会は来年度も継続していくので、そこでまた進捗状況を報告してもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。
議長	他にはございませんか。 それでは「(1) 第4次はんのうふくしの森プラン 事業実施状況について」は、承認することよろしいでしょうか。 (異議なし)
議長	それでは、承認することといたします。 続きまして、「(2) 圏域別ふくしの森活動計画 自己評価について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。
社会福祉協議会 主査	(資料2を説明)
議長	圏域によって評価シートの内容を工夫しても差し支えないとのことです。委員の皆様の中にも、実際に各圏域に住まわれている方がいらっしゃると思いますので、この評価シートを記入の方がおられるかと思います。 そんな目線でも評価シートについて皆様から、ご意見、ご質問があればお願いします。
委員	地域福祉推進組織で活動していて、一年ごとに評価をすることは必要だと感じていました。それが実現されて大変喜ばしく思っています。加えて、示してもらった評価シートはイメージということで、圏域の実状に合わせて内容を変えても構わないというのは、評価しやすいと感じました。
委員	評価シートについては良いと思います。目標を立てて、一つ一つクリアしていくというのは大切なことだと思います。 長く地域で生活していて感じるのは、地域でクリアしたい目標とい

	うのは、何か画期的なことがない限りあまり変わらないということです。ただ、例年の目標だとしても、着実に進めている部分がありますのでそれを評価したいと思います。
委員	この評価シートで第三者から評価されるということではなく、自己評価をするということによろしいでしょうか。
社会福祉協議会 主査	お見込のとおりです。
委員	自分たちの活動を自分たちで評価すると、評価が甘くなってしまうのではないかなと感じました。 また、目標にしていること、やろうと思っていることが例年あまり変わらないので、評価シートが自分たちの圏域でうまく活用できるのか心配しています。
議長	評価シートのタイトルを、「自己評価シート」にした方が良いかと思います。 地域活動というものは、継続するだけでもとても大変です。何かの活動を行いたいときに、自分たちだけで行うのではなく、専門職の人と一緒にいうといった繋がりができると、担当されている方々の負担も大きくなりすぎないと思います。そういったことも上手く書き込めるとより良い評価シートになるかと思います。
委員	地域で設定する目標というのは、毎年同じようなものになりがちだと思います。 評価シート自体について、各圏域でそれぞれに変えても良いのですが、まとめづらくならないでしょうか。共通したシートの方がまとめやすいと思います。
社会福祉協議会 主査	まとめ方につきましては、事務局でも検討していきたいと考えていますが、地域の皆様に作っていただいた計画を、地域の皆様が主体的になって振り返っていただくことに重きを置きたいと考えています。
委員	シートの形式はどのような形でも良いと思います。毎年、同じような目標になりがちという話も出ていましたが、私は同じ目標でも良いと思っています。大事なものは目標を達成するまでの過程で、同じような目標でも実施する人が替われば、毎年違った過程を辿ると思います。 自分たちが、自分たちの地域で一生懸命やっただけでいい

委員

いのだと思っています。

市民の中で、自分が暮らしている圏域のふくしの森活動計画の内容を知らない人が多くいると思います。まずは、計画の啓発を行う必要があると思います。

議長

飯能市は各圏域にC SWがいらっしゃるので、成果や課題として挙がってきたものをC SWが受け止めて、挙げられたものに対して、どのようなことが出来るのかを社会福祉協議会でも検討していく必要があると思います。

また、圏域別ふくしの森活動計画を見させていただいて、こどもを育てるということを目指しているところが多くありまして、とても素晴らしいことだと思いました。高齢者を対象とした取組に比べて、その他の分野の取組は地域で実施するのが難しい中で、多くの圏域で目標として掲げていることが飯能の特徴だと思います。

今年度は「はんのうふくしの森活動者交流会」という形で開催されましたが、来年度以降は「活動報告会」として開催してほしいと思っています。どこかの団体等に所属していない市民でも参加できるようなイベントの方が、各圏域の良い取組を多くの市民に知ってもらえる機会になると思います。併せて、ふくしの森プランの周知にも繋がると思いますので、ぜひ検討していただければと思います。

議長

他にはございませんか。

それでは「(2) 圏域別ふくしの森活動計画 自己評価について」は、承認することよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長

それでは、承認することといたします。

皆様ありがとうございました。

本日の議事は以上になりますので、これをもちまして議長の任を解かせていただきます。

委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

令和 年 月 日

議長の署名 _____